

[1] The squeaky wheel gets the grease.

きしる車輪は油をさされる

【意味】 不満があるときは、はっきり口にするとう要求が実現される。逆に、問題があるのに黙っていて声を上げなければ、放置されてしまう。

【用法】 squeaky は squeaking ともいう。サービスや労働条件などに不満がある場合は、がまんしないで明確に意思表示すべきだという文脈で用いる。

【ポイント】 車輪がギーギーと不快な音を出せば、すぐ潤滑油がさされる。この比喩がおおむね肯定的に用いられることに注意したい。日本では、「出る杭は打たれる」といって言動を控えたり、「意心伝心」で言葉ではっきりいわずに気持ちを察してもらおうとするが、英語のコミュニケーションでは、まず自分の意思を明確に示すことが求められる。

【用例 1】 John: Your fish is half-cooked, isn't it? Keiko: It certainly is. John: Why don't you complain and ask for another one? Modesty is not always good. The squeaky wheel gets the grease. (ジョン「君の魚、生焼けじゃない？」ケイコ「そのとおりよ」ジョン「なぜ、苦情を言って出し直させないの？ 遠慮も時によりけり。きしる車輪が油をさされるんだよ」)

【用例 2】 I have heard your complaint about your work. Though I sympathize with you, I can't understand why you don't do anything about it. The squeaky wheel gets the grease. (君の仕事についての不満を聞いてきて同情はするけれど、どうして何もしないのか理解できないね。きしる車輪は油をさされるんだぜ。)

[2] Still waters run deep.

静かな淵は深い

【意味】 水音をたてずに静かに流れている川が深いように、無口で穏やかな人には意外に激しい感情や深い知恵があり、時には狡猾さを秘めていることもある。

【用法】 人は見かけによらず、口数が少ないから穏やかな人であるとか鈍い人だと簡単に決めつけることはできない。静かな人ほど、むしろ内に秘めたものは並外れたものがあるのでは、という気持ちで、場合によっては何を考えているかわからないという警戒感とともに使われる。

【ポイント】 この種のことわざは、あらかじめ意味を知っていなければ、その場で理解しようとしてもなかなかうまくいかない。含みのある比喩で、むしろ具体的な結論を明示しないことによって印象が強められている。

【参考】 ドイツ語やオランダ語など、他のヨーロッパの言語にも同じような表現がある。

【用例 1】 Fred: I don't know Joe's background. He never says anything about himself. Tom: There is something odd about him. Still waters run deep. (フレッド「ジョーの経歴はわからない。やつは自分のことをまったく話さないんだ」トム「彼にはちょっと変わったところがあるね。静かな淵は深いよ」)

【用例 2】 Ellie was quiet and had a very clear head in her childhood. Her success in academia is the natural result. Still waters run deep, you know? (エリーは小さい時からもの静かで、とても頭がよかった。研究者として成功したのも当然の結果だね。静かな淵は深いんだね。)